

NEWS LETTER IPPS JAPAN

IPPS

Sharing Plants Production Knowledge Globally
Japan Region Since 1995

IPPS-J ニュースレター

国際植物増殖者会議日本支部

<http://www.ippsjapan.org>

2018.1

No.61

お問合せ先・事務局

IPPS 日本支部事務・会計理事：南出幹生

E-mail: head@minamidekk.co.jp

〒513-0801

三重県鈴鹿市神戸 7-8-5 南出(株)内

TEL 059-382-0040 FAX 059-383-6526

2018 年年頭のご挨拶

IPPS-J 会長 石井克明



国際植物増殖者会議日本支部会員の皆様、新年おめでとうございます。昨年は11月に初めての沖縄大会が南九州大学の前田先生や、宮崎大学の鉄村先生のご尽力により第24回日本支部大会は成功裏に開催ができました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。また、今年は、10月20、21日に和歌山県立情報交流センター（田辺市新庄町）にて第25回大会を開催する予定です。近畿大学の文室先生には大会委員長として大変お骨折り頂くこととなりますが、どうかよろしくお願いします。会員の皆様も、年に一度のイベントですので、是非この機会にご参集下さい。さて、IPPSの会員は2017年7月時点で、世界中では2321名ということになっております。会員数の増加を目指して、中国やインドでの支部会作りの動きがあり、国際本部の支援も予定されております。日本支部につきましても、本部のAlan Jones会長からは常々会の現況について連絡があり、交際交流の希望等の問い合わせがあります。今後、支部会を発展させるためにはどのような行動が必要か、会員の皆様のご提案をお願いします。

さて、国際本部のHPの改革が進んでいますが、2018年からは大会プロシーディングを集めたブラックブックをダウンロードできるようにし、出版CD配布を廃止するようになるそうです。また、Alanさんからは、2018年7月

28日から8月4日まで開催される北米西部支部会（ハワイのホノルルやコナの現地見学があります）、2018年9月11日から26日まで開催される北米東部支部会（国際理事会と国際ツアーを兼ね、ニューヨークやニューワーク周辺の現地見学があります）への日本支部からの参加を要請されていますので、参加可能な会員は是非ご出席をお願いします。（詳しくはそれぞれの支部のHPをご覧ください）さらに、2019年5月4日から16日まで、オーストラリア支部で支部会開催と同時に国際理事会と国際ツアーが開催される予定で、場所はブリスベーン州のケアンズ、ポートダグラス及びブリスベーン市とその周辺です。こちらもご都合の良い方はよろしくご参加をお願いします。

ところで、日本支部のHPに会員専用欄があるのをご存知でしょうか。インターネットの検索機能で「IPPSJ 植物」と入力すると、日本支部のHPがトップに立ち上がりますが、その左下の方の会員専用の部分をクリックすると、ログとパスワードの入力欄が出てきますので、ログは「2001dec」、パスワードは「ippsj」と入力して下さい。過去のニュースレターや理事会記録等が閲覧できます。

最後になりましたが今年もまた会員の皆様のご多幸とご発展を祈願致します。そして今後のIPPSの活動への更なるご協力をよろしくお願い致します。

IPPS-J 第24回沖縄大会開催

南九州大学 環境園芸学部 前田隆昭



昨年11月18日(土)～19日(日)に沖縄県で初めてIPPS-Jの大会が開催されました。今回は、今までの大会とは異なり見学を中心としました。

1日目は、琉球大学農学部において、石井会長の挨拶に続き、特別講演として一般財団法人 沖縄美ら島財団 佐藤裕之研究員から、『沖縄県産カラシコエを品種改良した「ちゅらら」誕生の経緯と今後の展望について』ご講演を頂きました。



佐藤裕之研究員の特別講演

その後、3人の演者による研究発表が行われました。

本大会の研究発表は1日目の午前中のみとし、午後からは沖縄本島南部の熱帯果樹の生産現場を見学しました。

まず、南城市の熱田守氏の園地では、園主より農園の概要説明を受けた後、パッションフルーツなどの園地を見学しました。



熱田果樹園での見学

その後、糸満市の金城幸栄氏の農園に移動し、アボカド、インドナツメ、レイシ、アテモヤ、ゴレンシなどを見学しました。



金城果樹園での見学

その後、那覇市内に戻り、夜の懇親会は、琉球料理と琉球舞踊で有名な「四つ竹」において行いました。

2日目は、沖縄本島南部の造園木と熱帯花木の苗木生産現場を、(有) 泉川園芸の古波津信也部長の案内で見学しました。

まず、八重瀬町の野原農園に行きました。



野原農園での見学

この農園では造園木の苗木生産を行っており、道路の街路樹や河川ののり面など公共事業で使用する苗木を育成していました。

その後、糸満市の(有) すこやか園芸に移動し、様々なハイビスカスやブーゲンビリアなどの苗木の生産現場を見学しました。これらの苗木はホームセンターを中心に出荷されているようでした。



(有) すこやか園芸での見学



懇親会での集合写真

その後、沖縄そばを食べて、一部の方は解散しました。まだ、時間の許される方は泡盛工場を見学し、2日間の日程を終えました。

今回は沖縄での初めての大会開催でありましたが、実行委員会の2人(私と鉄村先生)とも宮崎在住であったため、準備が十分でないところが多々あったかと思います。しかし、皆様方のご協力のおかげで何とか2日間を無事に終わることができました。この紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

(写真提供：南九州大学 尾崎 勝也氏)

研究紹介 静岡県立農林大学校 速水正弘



静岡県立農林大学校は、養成部（2年間）と研究部（2年間）に分かれており、それぞれで卒論の作成を行います。

私は、現在養成部園芸学科花きコース鉢物専攻の学生の指導をしており、5名の学生の卒論を担当しています。

その中から、面白いと思われる卒論の概要を、2つ、今回と次回に分けて紹介します。

今回紹介するのは、『鉢物の大敵ゼニゴケの防除について』というタイトルで、土屋慎吾君という学生が行った試験です。



鉢物の大敵ゼニゴケの防除について

静岡県立農林大学校園芸学科花きコース鉢物専攻

土屋慎吾

ゼニゴケは長年園芸分野の厄介者として嫌われています。

その理由は横に広がった外見はもちろん水や空気をあまり通さない性質を持ち、植えてある植物に悪影響を及ぼすほか、防除が難しいからです。

そこで私はこのゼニゴケの防除方法を昨年から模索してきました。

昨年は、小石を敷き詰めることによる物理的防除、農薬である粘着君を散布する化学的防除、そしてイタチノシッポと競合させる生物的防除を行いました。

物理的防除では小石による鉢土表面の乾燥を狙い、化学的防除では農薬粘着君によるゼニゴケの気孔の閉塞を狙い、生物的防除はイタチノシッポが繁茂している所ではゼニゴケが生えていることが少ないことを発見し、「防除効果があるかもしれないと考え、競合させる」実験を行いました。



鉢に生えたイタチノシッポ

昨年の結果では、ゼニゴケを鉢に植えて、ミスト下で栽培したため、物理的防除は一時

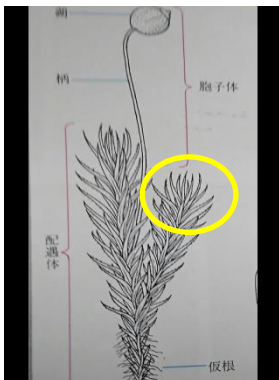
的にはゼニゴケの枯れが見られたが、しばらくするとほとんどが復活してしまいました。また、化学的防除は、ミストで薬剤が流れたためか、ほとんど効果が見られませんでした。唯一、生物防除においては、ゼニゴケが抑えられているようにも見えましたが、はっきりとした効果はわかりませんでした。

そこで今年、改めて生物防除にしぼって、実験を行いました。

イタチノシッポはヒノキゴケ科のコケ植物で、俗称ではスギゴケ、イタチゴケ等と呼ばれています。



苔庭や盆栽などではよく利用されていますが、園芸的には、害もないが利用価値はほとんどないと言われています。



名前の由来は、配偶体の部分がイタチのしっぽに似ていることからつけられたといわれています。

試験実施は次のとおりです。

(1) 栽培概要

8月28日 ゼニゴケ、イタチノシッポの採取、植え込み

10月5日 8月28日に植えこんだものにイタチノシッポ、ゼニゴケを植え、試験開始

12月10日 最終調査、写真撮影

なお、イタチノシッポとゼニゴケは、ミスト室内で栽培しているシクラメンの鉢に生えているものを使用しました。

(2) 試験構成

1区：ゼニゴケをある程度成長させた鉢にイタチノシッポを植え、ミスト温室に入れたもの

2区：イタチノシッポをある程度成長させた鉢にゼニゴケを植え、ミスト温室に入れたもの

3区：ゼニゴケをある程度成長させた鉢にイタチノシッポを植え、通常の温室に入れたもの

4区：イタチノシッポをある程度成長させた鉢にゼニゴケを植え、通常の温室に入れたもの



10月5日 右1、3区、左2、4区

(3) 試験規模

各区20ポット、計80ポット

結果については、全ての区で両方生存していたため、数値としては厳密には表せませんが、1区と3区では、ゼニゴケが鉢一面を覆い、一見イタチノシッポが負けてしまったように見られましたが、よく見ると、全ての鉢



12月10日 1区



12月10日 2区



12月10日 3区



12月10日 4区

で、イタチノシッポがゼニゴケの隙間から顔をのぞかせており、枯れてしまっていないことがわかりました。



ゼニゴケの隙間から顔をのぞかせているイタチノシッポ

2区と4区では、ゼニゴケがイタチノシッポに覆いかぶさろうとしているように見えるが、1区、3区ほど全面を覆ってしまうほどではありませんでした。

また、1区、2区は、3区、4区と比べ、ゼニゴケが旺盛に繁茂していました。また、2区は4区と比べ、イタチノシッポの胞子のうが少ないように見られました。

そのほか、3区は1区に比べ、ゼニゴケの端に枯れが見られ、4区は、ゼニゴケの端が枯れていたのに対し、イタチノシッポには変化が見られませんでした。

以上のことから、イタチノシッポのゼニゴケに対する防除効果は、ゼニゴケの成長を遅らせることはできても、絶滅させることは難しいと思われました。また、イタチノシッポはゼニゴケより乾燥に強いことがわかりました。

このことから、常に灌水を行う場所でのイタチノシッポによるゼニゴケの防除はさら

に難しいと考えられますが、冒頭でも紹介しましたように、一面にイタチノシッポが生えている鉢には、ゼニゴケが生えているものが少ないことから、長い時間をかければ、イタチノシッポがゼニゴケを駆逐する可能性は残されていますし、場合によっては、ゼニゴケの胞子の飛来を抑えたり妨げたりする等、なんらかの作用も期待できますので、さらに研究を進めてゆきたいと考えています。

以上が土屋君の卒論の速報（中間発表のもの）ですが、今年3月には土屋君は卒業し、就職することになっています。このことから、本人の意思はともかく、この研究を続けていくことは難しいだろうと思われま

す。この研究は、イタチノシッポだけではなく、ゼニゴケと競合（拮抗作用）し、なおかつ栽培している植物には影響がない苔であればなんでもよい訳で、そういったものが見つかったり、拮抗作用の証明等ができれば、鉢物園芸に大きく貢献するものと思われま

す。もし、引き続いてやっていただける方がいましたら、幸いです。

（静岡県立農林大学校 速水正弘）

IPPS米西部支部よりのお誘い

Dear Mr. Fujimori,

Thank you for your recent email. It is wonderful to hear that you are interested in attending our annual meeting. We would be delighted to have you join us, and Akatsuka Orchid Gardens as one of our tour stops. I hope other members from the Japanese region will join us as well.

① Schedule

1. The conference will start on Tuesday, July 31 with an evening reception;
2. Wednesday, August 1 will be all-day presentations;
3. Thursday, August 2 is an all-day tour across the island to Hilo (we would like to include

Akatsuka Orchid Gardens);

4. Friday, August 3 will have morning presentations and afternoon tours on the Kona side of the island. Friday night is a dinner banquet, and
 5. Saturday morning is a farewell breakfast.
- ② The speaker list and tour locations will be finalized in February and available on the website. I will also send you an email with all of the information as soon as it is completed.
- ③ YES -You can join the conference August 1 thought August 4.
- ④ We are still computing all of the conference costs. The full conference will probably cost between \$400 and \$500 U.S. dollars. The hotel rooms are \$142 U.S. dollars +tax per night.

Once again, thank you for responding to my email. We are very excited to have the Japan Region represented at our conference. Please let me know if you have any more questions, and I will send you detailed information as it becomes available.

Best regards,

Todd

Todd Jones

IPPS Western Region Executive Committee

ニュースレターでは、研究紹介の原稿を募集しています。

内容は、学会に発表するほどのものではないが（もちろん発表できる物でも構いませんが）、話題として会員にお知らせしたいもの等の原稿を募集しています。

今回のように、指導している学生の卒論やプロジェクト研究でも大歓迎です。

原稿は、表、グラフ、写真等を合わせ、4,000字以内でお願いします。

IPPS-J 第十一期理事・監事・役員・理事代理名簿 (2017.1.1~2018.12.31)

	役職	氏名	担当	会社・所属
1	会長	石井 克明		愛国際環境研究協会
2	副会長	大西 隆		(有)セントラルローズ
3	事務・会計理事	南出 幹生		南出(株)
4	編集理事	富田 正徳	インターネット	バイエルクロップサイエンス(株)
5	国際理事	大橋 広明		愛媛大学
6	理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株)赤塚植物園
7	理事	文室 政彦	和歌山大会	近畿大学
8	理事	速水 正弘	ニュースレター	静岡県立農林大学校
9	理事	島崎 一彦	高知大会	高知大学
10	監事	鉄村 琢哉	BlackBook	宮崎大学
11	本部・国際理事	Peter F.Waugh		C a r a n n
12	国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS活性化	(株)山陽農園
13	年史編纂委員	遠藤 弘志		
14	理事代理	青山 兼人		兼弥産業(株)
15	理事代理	前田 隆昭	沖縄大会	南九州大学
16	理事代理	水谷 朱美		(株)ベルディ
17	理事代理	乗越 亮		東京農業大学
18	理事代理	大内 盛勢		有限会社スコレー
19	理事代理	佐藤 伸吾		三菱樹脂アグリドーム(株)
20	理事代理	鈴木 隆博		
21	理事代理	登坂 初夫		(株)登坂園芸
22	理事代理	内田 恵介		グリーンクラフト

IPPS-Jの大会予定

※大会を開催したい方は早めに事務局へ申し出てください。

2018年11月24日(土)~25日(日) 第25回 和歌山大会(担当: 近畿大学 文室正彦先生)、和歌山県白浜町
 2019年 第26回 OO大会
 2020年 第27回 IPPSの国際大会が日本で開催となります。

編集後記 昨年の会議で、藤森さんからニュースレターの編集を引き継ぎ、「3月には自治会長をやめるし、翌3月には仕事もやめるので、暇だろう」と思い、気楽に引き受けたものの、11月に入ってからいろいろなことが重なってきて、1日が48時間でも足りないような毎日で、おまけになれない編集で、パソコンにトラブルが続き、皆様にはご迷惑をおかけしました。 今度パソコンを買い替え、次号までにはもう少しスムーズに編集できるようにしますので、積極的な投稿をお願いします。

ニュースレター担当: 速水正弘